

平 29 こ 第 150 号
平成 29 年 12 月 14 日

諏訪市保育所専門委員会
委員長 伊藤 武 様

諏訪市長 金子 ゆかり



本市における公立保育所の今後のあり方について（諮問）

少子化、核家族化による家族形態の変化や、地域社会における人間関係の希薄化などを背景に、子育てに不安や負担、孤立感を感じる保護者が増えています。また、近年の経済・雇用情勢、働き方の変化などにより、保育・幼児教育施設に対する期待は高まるとともに、そのニーズはますます多様化しています。さらに、今後確実に見込まれる急速な少子高齢化、人口減少社会の進展は、子どもと子育て家庭を取り巻く環境にも大きな影響をもたらすことが考えられます。

本市が平成 29 年に策定した「第五次諏訪市総合計画後期基本計画」におけるこれからの市政運営の基本的な考え方は、27 年に策定した「諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、これからの人口動向分析やそれに伴う市民生活への影響、行財政運営の課題などにかんがみ、「過去からの延長線上のみではなく、未来を見据えたまちづくりへと発想を転換し、未来につながる持続可能都市を目指す」こととしています。とりわけ、子ども一人ひとりの豊かな育ちを保障し、かつ子育て家庭を総合的に支える子育て支援の推進は、まさに、未来を拓き、次代を担う「人づくり」につながる施策であり、その中核となる子育て支援拠点がその機能を発揮し、求められる役割を持続的かつ安定的に果たしていくことが重要であると考えます。

つきましては、子ども・子育てを取り巻く現状と課題、長期的な保育ニーズへの対応を踏まえ、これからの公立保育所の役割や機能のあるべき方向性をさまざまな視点から検討いただき、あらためて、質の高い保育・幼児教育を持続的かつ安定的に提供していくため「諏訪市における公立保育所の今後のあり方」について貴委員会の意見を求めます。